

2022年度(令和4年度)学校評価自己評価表

城北中学校区	校番 2	福山市立城北中学校
最終更新日		2022年(令和4年)4月1日

I 福山市

ミッション 福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。
ビジョン 「福山100NEN教育」の基本理念のもと、各中学校区・学校が「21世紀型“スキル&倫理観”」の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。学びに向かう力・学び続ける力を育成する。

II 中学校区

前年度学校関係者評価の主な内容 学校関係者評価報告書は全項目「十分満足できる」と評価された。中学校校区で連携を深め、共通の取組で成果をあげている。各校の目標が達成できていないものについては取組の進捗状況を細かく把握し課題克服に向けて PDCA サイクルに則り実践する。	児童生徒の現状 全国学力調査の結果、校区小学校・中学校ともに福山市の平均正答率を上回った。また、長欠未然防止に向けて、現状や対策を話し合い、実践した。さらに、メディアウィークを設定することで、メディアとの付き合い方や利用の仕方について効果があった。	育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”) 知識・技能 思考力・判断力・表現力 主体的に学ぶ力 他者とかかわる力 社会貢献力 自己形成力	めざす子ども像 (義務教育修了時の姿) 自ら考え、判断し、行動できる自律した児童・生徒
		中学校区として統一した取組等	<ul style="list-style-type: none"> 校区合同研修における、合意形成を意識した授業研究及び教科等部会の取組 ICTを活用した個別最適化した授業実践及び協議・交流の取組 家庭での効率的な学習計画の立て方・メディアとの付き合い方への取組 合同行事や乗り入れ授業、「総合的な学習の時間」交流会の取組

III 自校

ミッション 福山市のリーダー校として、学びの変革を推進し郷土福山を愛する生徒を育て、地域・保護者から信頼される校区・学校にする。また、基礎的学力の定着や自ら考え学ぶ生徒を育てるとともに、心の育成を図り、城北中生徒としての品格と誇りを身につけ、「夢を実現できたのは城北で学んだから」と評価される学校をめざす。学びに向かう力・学び続ける力を育成する学校教育の推進。	新学習指導要領 資質・能力の柱	知識・技能	思考力・判断力・表現力	学びに向かう力・人間性等			
学校教育目標 生徒の主体性と自律性を育み、地域社会に貢献する生徒の育成	育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”)	知識・技能 知	思考力・判断力・表現力 思	主体的に学ぶ力 主	他者とかかわる力 他	社会貢献力 社	自己形成力 自
現状 ＜児童生徒＞ 【成果】 「学ビタ2年目」を単元の中に組み込み、主体的に学ぶ力の育成に効果がある授業づくりを行うことができた。 【課題】 ・「生徒が自ら考えたくる問い」や、「深い対話が生まれるような活動」が十分でなかったため、思考がアクティブになりづらい場面があった。 ＜授業＞ 【成果】 ・生徒アンケートにおいて、授業力に関わる質問項目の肯定的評価の平均値が80%以上であった教科が9教科中5教科であった。 【課題】 ・全教科において、活用・探求学習を行う割合がまだ少なく、生徒自らがOUTPUT しフィードバックする場面を設定する方法や単元の構成の仕方に課題がある。	めざす子ども像	学習したことを自ら語る。	根拠を持って、正しい判断をしている。よりよい解決のため、いろいろな見方・考え方をしている。自分の考えを相手が分かりやすいように伝えられる。	自ら課題を見出し、解決しようとしている。	他者と協力して、課題を解決しようとしている。他者との関わりを通して、自らの考えを深めたり変えたりしている。	他者との共存の中で、集団の利益になることを考え実践しようとしている。	前向きにチャレンジし、より自律・自立した人間になろうとしている。自らに自信を持っている。
	研究	教科等	国語・社会・数学・理科・英語				
		主題・内容等	主体的な学びの創造 (自ら考え学ぶ生徒の育成を目指した、全校一斉の教科学習「学ビタ」の実施)				
	めざす授業の姿	知 自らが学んだ知識や技能について、文章でまとめる習慣が身に付けられている。 思 課題解決に向け、自らの考えや課題解決のための方法を見出すための時間や手立てが講じられている。 主 関心・意欲を持って課題を見出し、課題解決の方法を考えられるような教材(題材)が提供できている。 他 グループやペア等の活動を通して、協働的に課題解決に臨んだり、他者の考えをもとに自らの考えを広げたり深めたりする場面が設定されている。 社 地域の課題に自ら目を向け、自分にできることはないかを考え行動化させている。 自 振り返りでは、学習過程における成長を評価するとともに、更なる追求課題を見いださせている。					

IV 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立城北中学校

年 目	中期経営目標	重 点	分 類	短期経営目標	目標達成に 向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)			最終評価(2月末)			
							□指標に係る 取組状況	70% 達成 評価	改善方策	□指標に係る 取組状況 ◎短期(中期)経営 目標の達成状況	70% 達成 評価	総合 評価	改善方策
2	自ら考え学 ぶ生徒(主体 性)の育成	★	新規	主体的に学ぶ意 欲・態度の向上	○授業において、主体 的に学ぶ意欲・態度 の向上を目的に、全 職員で課題を作成 し、全校教科学習「学 びタ」を年3回実施 する。 ○実技教科とリンクさ せ、横断的な学びを 創造する。	○生徒アンケートに おいて、主体的に学 ぶ意欲・態度に係わ る質問項目の肯定 的評価の割合をす べて80%以上にす る。							
			継続	確かな学力の定 着	○5月に行う学力の伸 びをみとるテスト (全学年対象)及び 全国学力・学習状況 調査(3学年対象)に おいて、個別の課題 について分析し、校 内研修において後期 の学習計画を立て、 それをもとに生徒面 談及び授業改善を行 う。	○全国学力学習状況調 査(3学年)正答率に おいて、全教科全国平 均以上にする。 ○学力の伸びをみとる テスト(全学年対象) の結果がどの層の分 布も右肩上がりにな る。							
		★	新規	自律的に行動で きる生徒の育成	○生徒会を中心とし た、生徒主体の学校 運営の実施。(自治 活動、縦割り集団を 軸とした学校行事、 学校給食等) ○一斉の部活指導日 を設け、生徒・教職 員共に部活動の充 実を図る。	○生徒アンケートに おいて、「学校行事 について、自分の役 割を自覚し、主体的 に行動しています」 の項目の肯定的評 価を95%以上にす る。							
2	教職員の資 質・能力の向 上		新規	専門教科の授業 力の向上	○ICT等を活用し た、生徒を学びに夢 中にさせる授業を行 うためのスキルアッ プ研修を行う。 ○個々の教職員の取 組を共有する場を設 定する。	○教職員アンケート において、「仕事に 意義とやりがい(意 欲)を感じている」 の項目の肯定的評 価を95%以上にす る。							
			新規	道徳・総合・特活 の授業力の向上	○それぞれに1回ずつ 校内研修を行う。 ○それぞれの分掌担当	○教職員アンケートに おいて、「『子どもが学							

				が、校内研修を行い知識・スキルの向上を図っていく。	ぶ』とはどういうことか、他の教職員と話したり考えたりしている」の項目の肯定的評価を95%以上にする。														
		新規	生徒指導の3機能(自己決定・自己存在感・共感的人間関係)を見据えた、生徒指導力の向上	○校内研修において、個々の生徒に寄り添う生徒指導をめざし、SCなどの講師による研修、教職員同士によるロールプレイの研修、生徒指導部主催による研修等を定期的実施する。	○教職員アンケートにおいて、「一斉研修で学んだことを、日々の授業実践に生かしている」の項目の肯定的評価を95%以上にする。														
2	地域に貢献する学校	継続	本校の取組や活動の地域への発信	○学校だより、学年だより、保健だより、HP、メール配信及び行事等において、本校の取組みや活動に関わる情報発信を積極的に行う。	○保護者アンケートにおいて、「城北へ行かせてよかった」の項目の肯定的評価を95%以上にする。														
		★ 継続	総合的な学習の時間を軸とした、地域理解・社会貢献学習の充実	○総合的な学習の時間の前期の単元において、全学年で「地域理解・社会貢献学習」を行い、地域の方々と共に学習を深める場を設定する。	○生徒アンケートにおいて、「地域貢献」に係わる質問項目の肯定的評価を90%以上にする。														
		継続	集団の一員としての自覚を高め、責任感を育成	○学校内での美化活動に主体的に取り組めるよう、美化委員会を中心とした取り組みを推進する。	○生徒アンケートにおいて「一生懸命清掃しています」の項目の肯定的評価を95%以上にする。														

[プロセス評価の評価基準]

評点	評価基準
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。

[達成評価の評価基準]

評点	評価基準
5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。
4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。
3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。
2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。
1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。

[総合評価の評価基準]

評点	評価基準	
5	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた。
4	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた。
3	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた。
2	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。
1	40%未満の達成度	目標を達成できなかった。